

授業科目名 ( 英文名 )	工業科指導法 (Teaching Theory of TechnicalEngineering II)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	3年次・後期
担当教員	雨河 祐二	所属	非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>高等学校「工業」の学習指導に必要な題材・領域・内容等についての理解を深めるとともに、計画・実践・演習・考察を通じて、環境に配慮し資源を大切に使うことを含めて、創意工夫を行い実績的な技術者を育成できる能力と態度を養う。また、生徒が主体的に課題を見つけ、自ら考え、自ら解決していく力、あふれる情報の中から必要な情報を選択し、自らの考えを築き上げる力を身に付けさせる工業科教員の育成を図る。また、演習（マイクロティーチング：短時間授業）を行い、具体的教科・科目の指導計画の立案、学習指導法（情報通信技術の活用を含む）等、工業教育への実践的な指導力を習得する。</p>		
講義内容・授業計画	<p><b>【講義内容】</b> 国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まりなど、社会の状況が大きく変化する中で、豊かな人間性をはぐくむとともに、一人ひとりの個性を生かし、その能力を十分伸ばす教育の在り方が問われている。工業高校ではどのように学習指導が行われているか、学習指導の基礎知識と最近の学習指導の動向、これからの工業技術教育（情報通信技術の活用を含む）について詳述する。</p> <p><b>【授業計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1： 工業高校の教育活動（学習指導要領、総則編、工業編）</li> <li>2： 工業教育と産業の接点</li> <li>3： 工業教育と産業の接点</li> <li>4： フィールドワーク 工業高等学校文化祭参加 10月30日（日）工業教育の現状及び施設・設備等の調査</li> <li>5： フィールドワーク 工業高等学校文化祭参加 10月30日（日）工業教育の現状及び施設・設備等の調査</li> <li>6： 科目「工業技術基礎」の在り方指導法（情報通信技術の活用を含む）</li> <li>7： 科目「工業技術基礎」授業の工夫・授業計画・評価</li> <li>8： 科目「製図」の在り方指導法</li> <li>9： 科目「製図」授業の工夫・授業計画・評価</li> <li>10： 科目「課題研究」「実習」の在り方指導法</li> <li>11： 科目「課題研究」「実習」授業の工夫・授業計画・評価</li> <li>12： 年間指導計画の編成（各学生の専門分野）</li> <li>13： 指導案の作成、導入・展開、評価</li> <li>14： 工業教育の実践、マイクロティーチング（模擬授業の実施）</li> <li>15： 教員採用試験への対応のまとめ：教員採用試験対策と工業教育における工業技術教育の展望と課題</li> </ol>		
テキスト	適宜指示		
参考文献	<p>高等学校学習指導要領（平成30年告示）          高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編          高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 工業編          新しい観点と実践に基づく 工業科教育法の研究 改訂版          教職必修 技術科・工業科教育法 教職課程研究会編          「課題研究」の理論と実践（工業）          JISにもとづく 標準製図法 第15全訂版</p>		
成績評価の基準・方法	<p>学習への意欲 20%、理解度 30%          課題の総合評価 50%（課題の内容 30%、提出状況 20%）          課題の提出状況が70%以下の場合は単位取得不可とする。</p>		
履修上の注意・履修要件	新型コロナウイルス感染症に伴う特例措置に基づく遠隔授業		

	<p>・当授業は、原則全ての授業を対面で実施する予定ですが、履修者人数によっては、新型コロナウイルス感染症対策として、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とすることがあり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境（PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境）が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡します。</p>
実践的教育	工業高校校長の経験から、履修生に工業高校の活動を経験させたく、工業高校の文化祭に参加（予定）し、生徒の活動状況や施設・設備を観ることにより、高等学校工業科教員に就く事への思いを強くする。
備考	特になし。